

**（件名） 吉本興業所属の芸術家 Satoly さんによるワークショップの実施について****（1） Satoly さんによるワークショップについて**

11月3日から7日の日程で、道と包括連携協定を締結している吉本興業所属のアーティストである Satoly さん（釧路市出身）がサハリン州を訪問し、ホルムスク市内やユジノサハリンスク市内の特別支援学校やギムナジア（専門性の高い特別校）などで絵画の制作を行うワークショップを実施しました。

Satoly さんは、2007年に正看護師の資格を得て5年間正看護師として勤務後、2013年から本格的にアーティストとして活動を開始、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念である福祉の促進を目指し、国内外の障がい者施設などへの訪問を行い、これまで100回以上のワークショップを実施しており、今回初めてサハリンを訪問しました。

**（2）ワークショップの内容について**

ワークショップは、ホルムスク市内の養護施設で2回、ユジノサハリンスク市内の特別支援学校やギムナジアで3回、計5回開催されました。12歳までの生徒を対象に1回のワークショップにつき、約20人が参加しました。各訪問先において、視覚障害のある子供でも絵を楽しむことができるよう、熱で膨らむ特殊なインクが入った「モコモコペン」で、布製の手提げバッグに自分たちの好きな絵を描くワークショップが行われました。

ワークショップでは、バッグにどんな絵を描くのかを（例えば好きな動物や乗り物など）それぞれ生徒たちに決めてもらうことから始まりました。自分で絵を描くのが難しい生徒には、Satoly さんが用意した様々な動物や乗り物の型紙を一つ選んでもらいました。次に、生徒たち自ら特殊な下書きペンを使用して絵の下書きをし、モコモコペンで下書きをなぞった後、参加した子供たちの名前を Satoly さんがサインのように描いていき、最後にヒーターで膨らむ絵具を乾かすという一連の流れでワークショップは行われました。ヒーターで乾かすと、特殊なインクが膨らんで絵が立体的に見える始め、生徒たちからは「すごい」といった驚きとともに「魔法みたい」と感激する声が続々と上がりました。

**（3）当事務所の取組について**

当事務所では、Satoly さんの理念である“参加する全ての子どもが楽しむことのできるワークショップ”を実現するために、6月から実施時期、開催場所などについてサハリン側と調整を行ってきました。

ワークショップ終了後、ホルムスク市内やユジノサハリンスク市内の養護施設の先生方や施設長と話した折、「このようなワークショップは初めてであり、子供たちもとても喜んでいました。来年もぜひ開催してほしい」との意見が多く聞かれ、今回のワークショップが次につながる一歩となったことを改めて実感しました。

事務所では、これまで多くのサハリンとの交流事業を実施・支援してきましたが、今回のような取組は初めてであり、今後も両地域の人的交流が様々な分野で促進されるよう取り組んでいきます。



ワークショップの説明



ワークショップの様子1



ワークショップの様子2